

手足症候群の予防方法

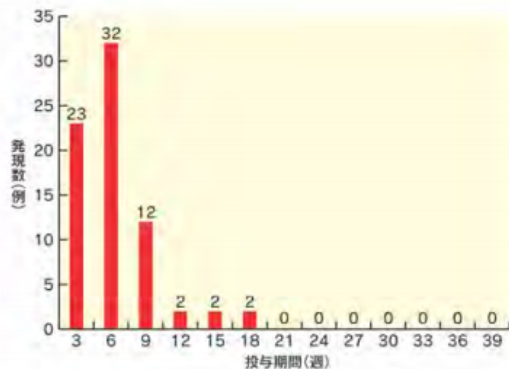
小山記念病院 化学療法委員会

◆◆ 手足症候群とは？ ◆◆

手足症候群とは、抗がん剤治療によって、手や足の皮膚の細胞が障害されることで起こる副作用のことです。手のひらや足の裏が痛くなったり、赤くなったり、ときに水ぶくれができたりします。

◆◆ 手足症候群が起こりやすい時期は？ ◆◆

B法（2週間投与1週間休薬 2,500mg/m²/日）における初発時期を図4に示す。
ほとんどの症例が投与9週までに発現していた。



大腸がんの治療に使用するゼローダ錠の場合、投与開始から3～6週間後が最も症状の発現しやすい時期です。ほとんどの症例で、投与9週間目までに症状が発現しています。

【予防的に使用する保湿剤の例】



【症状発現時に使用するステロイド】



成人の人差し指の先から第1関節まで軟膏剤やクリーム剤を載せた量が1FTU
(軟膏剤、クリーム剤：1FTU=約0.5g)
※チューブの口径を5mmとした場合



医

Tel 0299(85)1111 (代表)

◆ 症状の発現予防には手足の保湿が最も重要となります。右写真の薬剤を使用することが推奨されています。1日に2～3回の使用をお勧めします。

1回の使用量は右下のイラストを参考にしてください。

手のひら

1FTU が両手の手のひらに塗る量です。

足の裏

1FTU が片足の裏に塗る量です。

症状が出現してきたら（ピリピリする、赤い、皮がむけた 等）下記の軟膏（ステロイド剤）を塗って対処してください。

その際も、保湿剤の使用は継続して構いません。

塗る順番は、保湿剤 ⇒ステロイドが推奨されます。

◆◆ 症状が辛いときは… ◆◆

症状がひどい場合（痛くて手を使えない、歩きづらい 等）には、すぐに病院にご連絡ください。服用している抗がん剤の休薬（服用中止）が必要な場合があります。